



## 日本の食文化を後世に

7月17日の高齢者大学は、「お漬物」をテーマに講座を開催。

札幌市内でお漬物を製造・販売している講師の藤田仁志さんは、サラリーマンの頃、日本各地を巡り食文化の違いを実感したと言います。家庭の味ともいえるお漬物は、「自分で育む食べ物」。文字ではなく、ふれ合いながら後世に言葉で伝えて欲しいと話していました。語り継がれる家庭の味、一品でも残して行きたいですね。

## ゲーム感覚で楽しんで

7月17日、木製の手作り百人一首が早来小学校に寄贈されました。

寄贈したのは早来大町に住む道念新治さん。自身が小さい頃は、よく皆で百人一首を作ったそうです。一度は自分で作ってみたいと思い、昨年末から取り掛かり、これまで3組の百人一首を作成しました。道念さんは「性別、年代関係なくできる遊びだから積極的に使って欲しい」と話されていました。



## 元気一杯！楽しく交流

7月29日、早来小学校で平成26年度安平町高齢者スポーツ大会が行われ、190名の高齢者が参加。

真つ直ぐ転がすのが難しいピンころがしリレーや景品がプレゼントされる紙飛行機飛ばしなどの競技を通じて交流を図りました。

競技はチーム対抗で行われたこともあり、他のチームに勝ちたいという思いからか、熱の入ったプレーや応援を随所で見ることができました。



## （今月の1枚） 養鶏場から始まる魅力

広報あびら8月号の今月の1枚は、「養鶏場から始まる魅力」です。

### 新たな挑戦

「コケッココ」と元気な鳴き声が聞こえてくる養鶏場は、プロセスグループ夢民舎が建てたもので、ここでは200羽の鶏が飼育されています。

養鶏場建設の経緯を「自分たちで生産したものを、お客様に提供したい」という思いで...と話すのは、宮本正典社長。

経験はないものの鮮度や安心を届けたいという一心で始めたそうです。

### こだわり卵の特徴は

飼育されている鶏には、通常の飼料に加えチーズ作りの工程で出るホエーを与えているとのこと。ホエーにはたくさんの栄養分が含まれており、鶏の健康状態



に一役買っているそうです。美味しい卵には、健康な鶏が不可欠なのです。

卵の味を楽しむものとしてオススメは「プリン」。ほんのり甘く、滑らかな舌触り。ほろ苦いカラメルソースにも負けないしつかりとした卵の味が特徴的でした。

### 食で町を盛り上げたい

取材の最後に今後のプランを伺ってみると「この卵を使って、安平町を知って貰うきっかけをどんどん作ってほしい」と話す宮本社長でした。

